

# 天栄村水道事業経営戦略(概要版)

## 基本事項

少子高齢化による人口減少社会の到来や、施設の老朽化、更には東日本大震災の影響により、水道を取巻く環境は大きく変化しました。

経営環境が厳しくなる中、安全な水の安定供給を維持していくため、将来を見据えた経営の基本方針として上水道事業は平成28年度に、簡易水道事業は令和2年度にそれぞれ策定しました。

現行の経営戦略の計画期間は、上水道事業が平成29年度から平成38年度(現:令和8年度)まで、簡易水道事業が令和3年度から令和12年度までの10年間の計画年度としています。

## 改定の趣旨

保有する資産の老朽化に伴う更新期の到来や人口減少等に伴う料金収入減少、物価高騰などを要因とした経営環境の変化を鑑みて中長期の経営の基本計画である経営戦略を改定します。

また、国(総務省)からは、今後の急速な人口減少等に伴うサービス需要の減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、経営環境が厳しさを増す中において、将来にわたり住民生活に必要なサービスを安定的に提供していくため、令和7年度までに経営戦略の改定を行うよう求められています。(令和4年1月25日付け 総財公第6号 総務省自治財政局公営企業課通知)

令和6年度から簡易水道事業も公営企業化し、天栄村水道事業会計として一本化した運用を行っていることから、経営戦略の計画を統合します。

## 1 事業概要

### (1) 施設

- ・供用開始 : 昭和52年4月1日
- ・計画給水人口 : 7,640人 (うち簡易水道 940人)
- ・配水能力 : 3,786m<sup>3</sup>/日 (うち簡易水道 466m<sup>3</sup>/日)
- ・現在給水人口 : 4,769人
- ・配水池数 : 4力所

天栄村の水道水は、山間地の湧水と深井戸から取水しており、その水質はとても良好であり塩素消毒のみで各家庭に給水しています。

### (2) 基本使用料 ※1月当たり(税込)

	水道事業	簡易水道事業
家庭用	1,885	1,540
団体用	1,948	1,654
営業用	4,368	3,309
臨時用	3,184	1,769
超過料金	203	104

水道使用料は、隔月の請求になります。

### (3) 組織

建設課管理係 3名 (課長1名、係長1名、係員1名)

## 2 計画期間

天栄村水道事業経営戦略の計画期間は10年間とし、令和8年度(2026年度)を初年度、令和17年度(2035年度)を最終年度とします。

ただし、今後の事業運営に大きな影響が及ぶような事態が生じた場合には、随時見直しします。

## 3 将来の事業環境(10年後の予測)

- ・給水人口の予測 : 4,769人から約750名ほど減少していると予想されます。
- ・水需要の予測 : 1,115m<sup>3</sup>/日から約150m<sup>3</sup>/日ほど減少していると予想されます。
- ・料金収入の予想 : 給水収益88,324千円から7,875千円減少すると予想されます。

#### 4 経営の基本方針

経営の基本施策として、「安心」「安定」「持続」「環境」に分類し基本方針を定めます。  
安心して美味しく飲める水道水を安定して供給できるよう、適正な水質管理や水道施設の維持管理に努め、やがて来る大規模な布設替時代のためにも将来を見越した更新計画により運営基盤の強化に努めます。

#### 5 投資・財政計画

##### (1) 投資について

・ライフラインとしての水道事業では、安定した給水が極めて重要であり、水道施設を健全な状態で維持していかなければなりません。施設の更新や管路の布設には多額の資金が必要になるため、優先度を設け計画的な更新が必要になります。

1 石綿セメント管の布設替：令和12年度を目標に耐震管へ布設替を行います。

2 管路の耐震化：令和8年度から導水管の耐震化を計画し、重要施設につながる管路を計画的に耐震管へ更新していきます。

##### (2) 財政について

給水人口の減少に伴い、給水収益の減少や、物価高騰を要因として経営環境が厳しくなると予想されます。企業債残高を増やさないこと基本に企業債の発行額を計上しており、元利償還金を将来世代に負担させないよう努めます。

##### (3) 投資以外の経費について

動力費、薬品費、委託費等、水道水を作るところから、各家庭まで給水するまでの経常的な費用のほか、職員の人件費となっています。事業規模や業務量を適正に把握し、効率化・合理化、職員数の適正化に努めていきます。